



コーヒー価格は12月の下げから若干回復した

2017年12月に22か月振りの安値を付けた後、2018年1月のICO複合指標価格月間平均値は1.4%上げ115.6米セント/LBだった。グループ指標価格は全て上昇し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルは夫々1.5%、1%、1.8%、ロブスタは1.2%上昇した。2017年12月の世界コーヒー輸出量は前年同月比0.7%増え10.62百万袋だった。しかし、2017/18年度第1四半期の総輸出量は前年同期比6.7%少ない28.36百万袋となった。2017/18年度世界コーヒー生産量は前年度比0.8%増の推定158.93百万袋である。アフリカ地域の生産量が4.7%増の17.9百万袋、アジア・オセアニア地域は5.9%増の47.64百万袋、中米・メキシコ地域は7.1%増の21.92百万袋である。しかし、南米地域は4.9%減少し71.44百万袋となり他地域の増産を相殺する形になった。

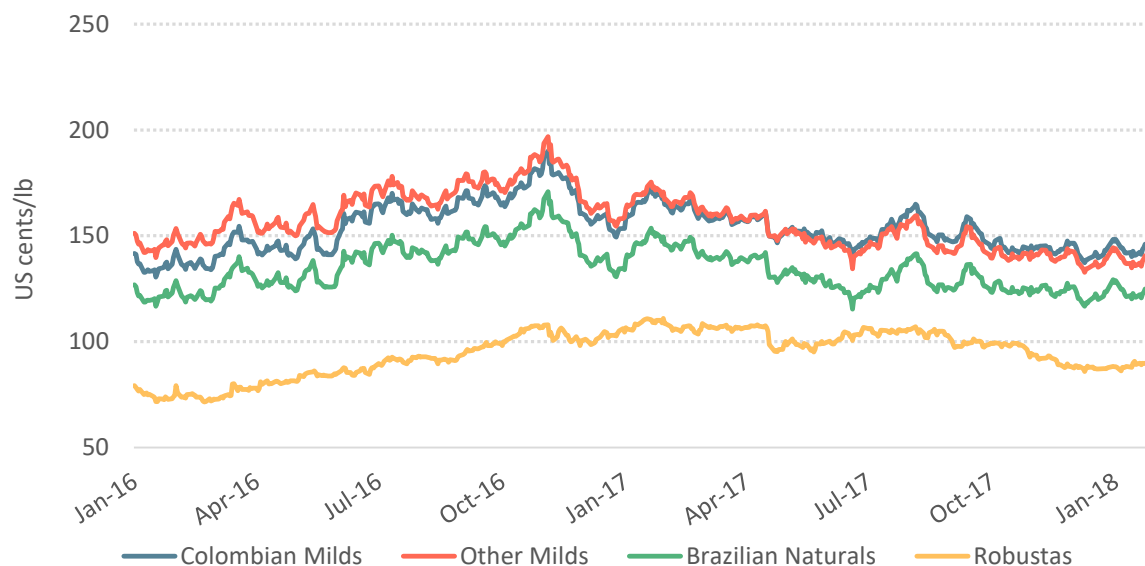
図1: ICO 日次複合指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2017年12月に直近22か月間の最安値水準まで下落した後、2018年1月のICO複合指標価格月間平均値は1.4%上昇し115.6米セント/LBだった。1月の日次複合指標価格は、高値となる118.83米セント/LBで始まり1月16日に113.03/LBまで下落したが月末に向かって値を戻した。

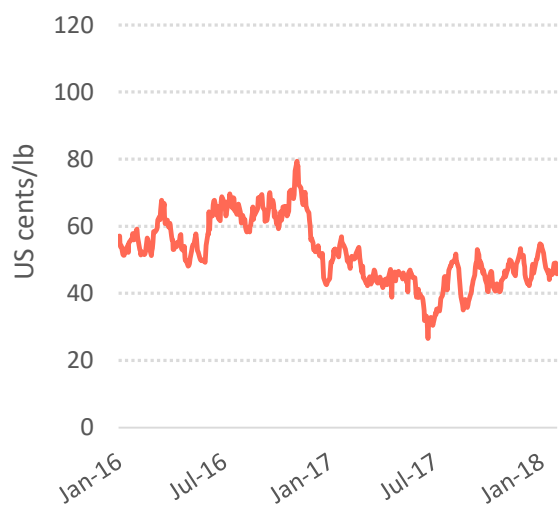
図 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

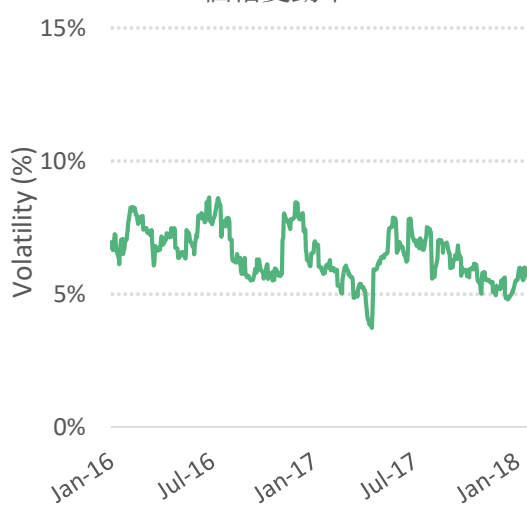
1月、グループ指標価格は全て上昇した。コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルの日次グループ指標価格は月初に比べ月末価格が下げたとはいえ、月間平均価格は夫々1.5%、1%、1.8%上昇した。ロブスタグループ指標価格も上昇し、日次価格が2017年11月以来初めて短期間ではあるが90米セント/LBを超え、月間平均価格は2017年12月に比べ1.2%高い88.65米セントとなった。ニューヨークとロンドン先物市場で測るアービトラージの1月平均値は3.8%上げ48.75米セント/LBだった。更にICO複合指標価格の価格変動率は、5か月連続して下げていたが1月に初めて0.6%上げ5.7%になった。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

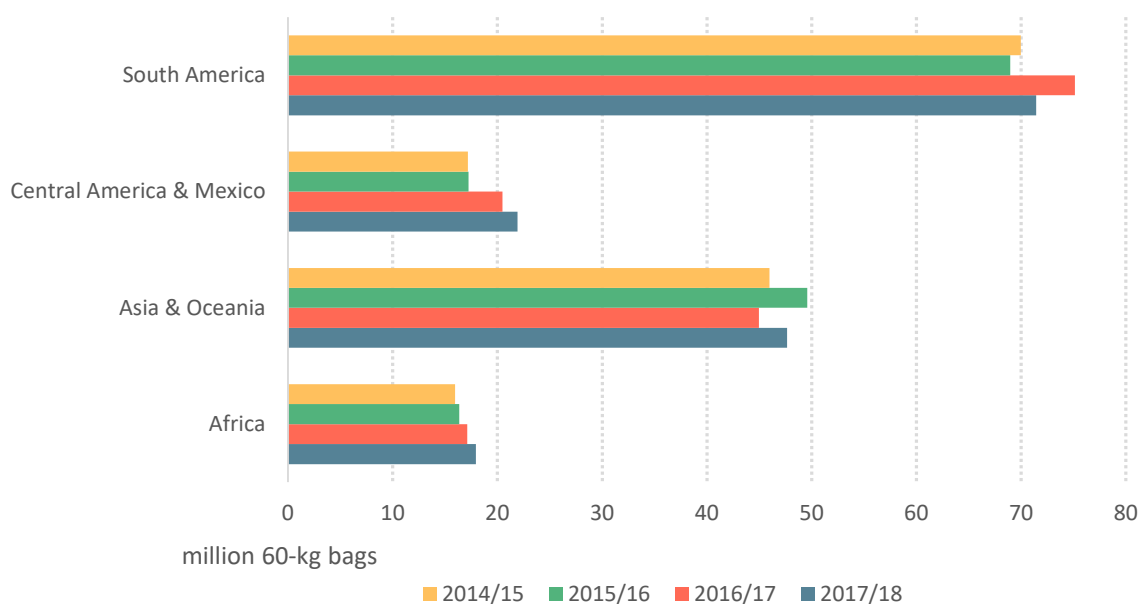


© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2017/18年度の世界コーヒー生産量は推定158.93百万袋である（前年度は157.69百万袋だった）。全生産量に占めるアラビカコーヒーのシェアは62.2%となり（前年度は64.8%）、ロブスタコーヒーのシェアは2016/17年度の35.2%から2017/18年度は37.8%に増えた。アザーマイルドは6.6%増え32.68百万袋となったが、コロンビアマイルドの生産量が15.21百万袋と4.6%減少、ブラジルナチュラルが50.95百万袋と8.3%減少したため相殺される形になった。2017/18年度のロブスタグループ生産量は推定60.09百万袋であり、前年度対比8.2%増えた。

2017/18年度は南米地域以外では全ての地域で増産の予想である。南米地域の生産量は推定71.44百万袋であり2016/17年度比4.9%の減産となっている。これは主にブラジルの生産量が、2016/17年度の55百万袋から51.5百万袋に大幅減産したことによるものである。同国政府機関のCONABは2018/19年度ブラジルコーヒー生産量について第一回予想を中間値56.48百万袋と発表した。この数字は2017/18年度に比べ25.6%の増加である。CONAB予想ではアラビカ・ロブスタ両方とも増産である。アラビカコーヒーは2018/19年度が2年生産サイクルの表年に当たっている。ロブスタはエスピリトサント州、バイア地区、ロンドーニャ地区の生産性が改善したことが主な増産要因である。コロンビアの生産量は14百万袋の予想だが、これは前年度の14.63百万袋に比較すると4.3%の減産である。コロンビアの2017/18年度第1四半期生産量は前年同期比10%減少しているが、10月・11月の減産幅が12月の微増産幅を上回ったことによるものである。これらの月の減産は降雨量が多すぎたことが原因だが、ミタカクロップは増産が予想されている。

Figure 5: Regional coffee production



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

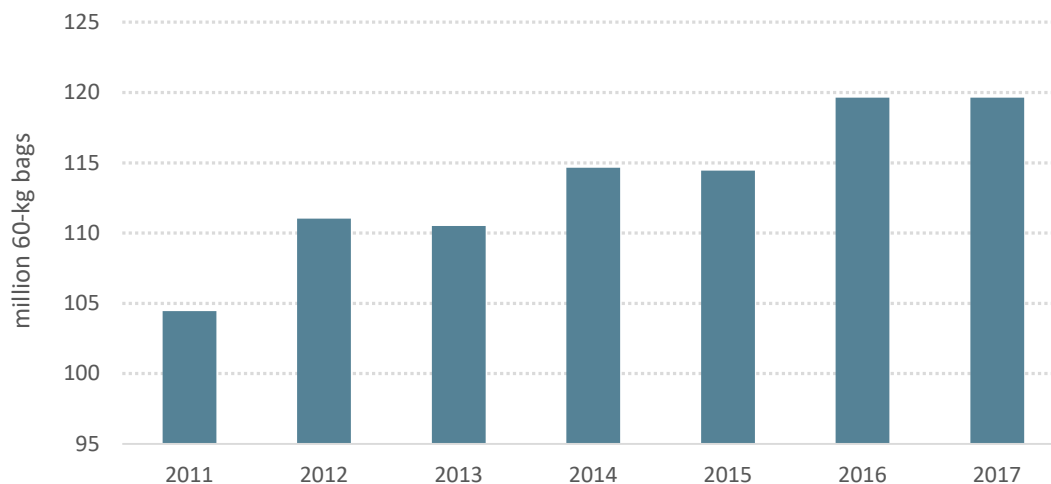
アフリカ地域の2017/18年度の生産量は17.93百万袋の予想で、前年対比4.7%の増産である。この地域の2大生産国は夫々増産の見通しで、エチオピアは4.8%増の7.65百万袋、ウガンダは2.8%増産の5.1百万袋の予想である。エチオピアは5年連続しての増産となるが、コーヒー部門への投資増や政府支援強化の恩恵を受けたものである。

アジア・オセアニア地域の2017/18年度の生産量は5.9%増え、47.64百万袋の予想である。ベトナムの推定生産量は28.5百万袋であり、前年度対比11.6%の増産である。インドの生産量は12.3%増の5.84百万袋の予想で、これは十分な降水量と新しく植えられた木が収穫期に達したことによるものである。インドとベトナムの増産がインドネシアの6%の減産（生産量は10.8百万袋）を相殺する形になった。

メキシコ・中米地域の生産量は21.92百万袋の予想で、2016/17年度比7.1%の増産で、最も大幅な増産が予想されている地域である。この地域の3大生産国は増産を予想している。2016/17年度に7.46百万袋の生産量を記録したホンジュラスは、2017/18年度は更に12%増産、8.35百万袋を予想している。メキシコは前年度比5.8%増の推定4百万袋、グアテマラは3.1%増の3.8百万袋の予想である。

2017年12月の世界輸出量は10.62百万袋だったが、2016年12月の10.54百万袋に比べ0.7%多い数字である。これにより2017/18年度の第1四半期の総輸出量は28.36百万袋となり、2016/17年度比6.7%減少した。

図 6: 世界のコーヒー輸出量



© 2018 International Coffee Organization (www.ico.org)

2017暦年の総輸出量は前年度とほぼ同じ119.63百万袋だった。コロンビアマイルドとアザーマイルドの輸出量は夫々1.4%、14.2%増加した。しかし、これらの増加幅はブラジルナチュラル（-2.8%）とロブスタ（-5.8%）の減少幅を下回った。ブラジルの2017年の輸出量は2016年比10.6%減の30.64百万袋となり、ベトナムの輸出量は14.4%減の推定23.6百万袋だった。2017暦年のコロンビアの輸出量は2016年比2.3%増の13.13百万袋、インドの輸出量は7.5%増の6.54百万袋となった。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
Feb-17	137.68	163.67	166.35	145.50	106.49	148.64	98.46
Mar-17	134.07	158.40	160.15	139.67	106.73	143.38	99.01
Apr-17	130.39	154.97	155.40	136.09	103.58	139.25	95.34
May-17	125.40	151.41	150.00	131.21	98.36	135.45	90.35
Jun-17	122.39	146.12	143.22	123.71	101.95	128.18	93.11
Jul-17	127.26	152.51	149.66	129.19	104.94	135.71	96.03
Aug-17	128.24	155.15	149.88	131.93	104.52	138.11	94.89
Sep-17	124.46	151.47	146.56	129.67	99.18	135.95	89.69
Oct-17	120.01	144.26	140.71	124.55	98.39	131.00	88.38
Nov-17	117.26	144.09	140.90	124.28	91.33	129.96	81.46
Dec-17	114.00	141.62	137.42	121.47	87.59	125.25	78.30
Jan-18	115.60	143.77	138.81	123.67	88.65	127.65	78.90
% change between Dec-17 and Nov-17							
	1.4%	1.5%	1.0%	1.8%	1.2%	1.9%	0.8%
価格変動率 (%)							
Dec-17	5.2%	5.2%	5.5%	6.6%	5.4%	6.8%	6.7%
Jan-18	5.7%	6.1%	6.5%	7.5%	5.1%	7.5%	6.0%
Variation between Dec-17 and Nov-17							
	0.6	0.9	0.9	0.9	-0.3	0.7	-0.7

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
Feb-17	-2.68	18.17	57.18	20.85	59.86	39.01	50.18
Mar-17	-1.75	18.72	51.66	20.48	53.42	32.94	44.37
Apr-17	-0.43	18.88	51.40	19.31	51.82	32.51	43.92
May-17	1.41	20.20	53.05	18.79	51.64	32.85	45.09
Jun-17	2.89	22.41	44.17	19.51	41.28	21.76	35.07
Jul-17	2.85	23.32	47.57	20.47	44.72	24.25	39.68
Aug-17	5.27	23.22	50.63	17.95	45.36	27.41	43.22
Sep-17	4.91	21.80	52.29	16.89	47.38	30.49	46.26
Oct-17	3.55	19.70	45.86	16.16	42.32	26.16	42.62
Nov-17	3.19	19.81	52.76	16.62	49.57	32.95	48.50
Dec-17	4.20	20.15	54.03	15.95	49.83	33.88	46.95
Jan-18	4.96	20.10	55.12	15.14	50.16	35.02	48.75
% change between Dec-17 and Nov-17							
	18.1%	-0.2%	2.0%	-5.1%	0.7%	3.4%	3.8%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界コーヒー需給バランス

Crop year commencing	2014	2015	2016	2017	% change 2016-17
PRODUCTION	149 077	152 108	157 694	158 930	0.8%
Arabica	86 281	88 433	102 174	98 843	-3.3%
Robusta	62 796	63 675	55 520	60 087	8.2%
Africa	15 964	16 338	17 123	17 929	4.7%
Asia & Oceania	45 974	49 566	44 968	47 642	5.9%
Mexico & Central America	17 189	17 238	20 466	21 924	7.1%
South America	69 951	68 966	75 137	71 435	-4.9%
CONSUMPTION	151 725	155 756	157 382	158 953	1.0%
Exporting countries	47 198	48 253	48 514	48 998	1.0%
Importing countries (Coffee Years)	104 527	107 503	108 868	109 954	1.0%
Africa	10 705	11 031	11 309	11 404	0.8%
Asia & Oceania	32 550	33 605	34 425	35 300	2.5%
Mexico & Central America	5 238	5 315	5 239	5 266	0.5%
Europe	50 914	51 626	51 693	51 924	0.4%
North America	27 359	28 931	29 380	29 658	0.9%
South America	24 960	25 248	25 335	25 400	0.3%
BALANCE	-2 648	-3 648	312	-22	

In thousand 60-kg bags

表 4: 輸出国の総輸出量

	December 2016	December 2017	% change	October-December		
				2016	2017	% change
TOTAL	10 543	10 621	0.7%	30 405	28 361	-6.7%
Arabicas	6 712	6 596	-1.7%	19 448	18 660	-4.1%
Colombian Milds	1 558	1 465	-6.0%	4 310	3 930	-8.8%
Other Milds	1 759	1 942	10.4%	4 917	5 346	8.7%
Brazilian Naturals	3 395	3 189	-6.1%	10 221	9 384	-8.2%
Robustas	3 831	4 025	5.1%	10 957	9 701	-11.5%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量推移

	Jan-17	Feb-17	Mar-17	Apr-17	May-17	Jun-17	Jul-17	Aug-17	Sep-17	Oct-17	Nov-17	Dec-17	Jan-18
New York	1.45	1.49	1.53	1.58	1.65	1.70	1.73	1.86	2.03	2.15	2.17	2.23	2.24
London	2.73	2.80	2.85	2.87	2.87	2.81	2.63	2.52	2.52	2.19	2.20	2.09	1.79

In million 60-kg bags

ー トピックス (1) ー

TECH2 ニュース

2018 年 1 月 19 日 ブラジリア

ブラジル国家食料供給公社 (CONAB) は 2018 年のブラジルコーヒー生産量予想を前年度対比 21%~30%増産になると発表した。

CONAB によると 2018 年のブラジルのコーヒー生産量は 54.44~58.51 百万袋 (60 k g) の見通しとのことである。この数字は 2017 年の 44.97 百万袋に比べると 21.1%~30.1%の増産である。

アラビカコーヒーの生産量は 41.74~44.55 百万袋で平均すると 26%の増産になっている。この情報は CONAB の第一回ブラジルコーヒー調査報告会で発表されたものである。コニロンの生産量は 12.7~13.96 百万袋、平均増産率 24.3%である。

この増産は主に 2018 年が 2 年生産サイクルの表年に当たることによるものである。CONAB によるとこの 2 年生産サイクルは主にアラビカ種で発生するとのことで、天候に恵まれたことや生産技術の進歩も理由の一つだとしている。アラビカコーヒーの耕作面積は 1.78 百万ヘクタールに上るが、これはブラジルコーヒー全耕作面積の 81%に当たり、新たに増えた耕作面積は 3750 ヘクタールで 0.2%である。

コニロンについては、耕作面積は 417930 ヘクタールで昨年対比 2.1%の減反となっている。この内 378620 ヘクタールが生産面積であり 39310 ヘクタールは今後、生産が期待できる農園の面積である。

ミナスジェライス州は最大のアラビカ耕作面積 1.23 百万袋を擁しており全アラビカ耕作面積の 68.8%を占めている。アラビカコーヒーの耕作面積は過去 10 年間ほぼ変わらず 1.78 百万ヘクタールを維持している。

CONAB によると、2018 年度のブラジルコーヒーの生産性はヘクタール当たり 28.41 袋~30.54 袋で前年対比 17.7%~26.5%向上しているとのことである。

以上

ートピックス（2）ー

ウォールストリートジャーナル

2018 年 1 月 24 日 ロスアンジェルス Sara Randazzo

発癌物質警告の氾濫するカリフォルニア州、次はコーヒーか。

1986 年に制定された発癌物質の表示を義務付けるカリフォルニア州法がコーヒーに適用されることになるかもしれない。

カリフォルニア州では、ビルのロビー、駐車場、レストラン等いたる所で州法に基づく発がん物質警告表示が見られる。キティーリッター、セラミックスプレート、ブラックリコリス (black licorice) などの製品にもこの警告表示が貼られている。

カリフォルニア州判事は数ヶ月以内に、30 年前に発がん物質を含む製品をカリフォルニア住民に警告することを決めた州法に従いコーヒーに発がん物質警告表示をするかどうかの最終判決を下すようだ。

昨年 8 月バージニアからカリフォルニアに引っ越してきた博士課程の学生 Steve Haring 氏は、『彼らは私が毎日外出する都度見られるように、部屋の内扉にまでこの警告を掲示させるつもりだ』と言っている。

焙煎過程で発生するアクリルアミドという無臭の科学物質を含んでいるという理由で、今コーヒーに注目が集まっている。

アクリルアミドはカリフォルニア州が癌、新生児障害、その他生殖障害等の原因物質を含むと決めた 900 を超える物質の一つである。製造者は 65 条 (Proposition 65) で知られる州法に基づいて製品にこれらの原因物質が含まれている場合には消費者に警告する義務がある。

紙を製造したり、染色する際に使用されるこの化学物質は、ポテトチップ、パン、フレンチフライなど焼いたり揚げたりする食品にも含まれている。

Warren Fong 氏（カリフォルニア州、オレンジカウンティの引退腫瘍学者）は『茹でたり、蒸した食品だけが安全なんて馬鹿げている』とし、65 条警告は無用だと思っていると述べている。『危険が低く、その警告を見たからと言って行動を変える訳でもないようなものを声高に叫ぶ意味はない』と。

一方、この法律の支持者は、この法律が危険を周知したお陰で宝石類のカドミウム、ベビーパウダーの鉛のように多くの製品に含まれていた有害化学物質を減らすことが出来たと主

張している。

コーヒー案件は、2010年に南カリフォルニア在のNPO毒物教育・研究評議会（Council for Education and Research on Toxics）がRaphael Metzger弁護士と共に何社ものコーヒー販売業者・製造業者を訴訟し、継続審議されている案件である。スターバックス、キューリグ・グリーンマウンテンを含む被告側はコーヒーに含まれるアクリルアミドは微量に過ぎず、健康メリットの方が大きいと主張している。本件に関しスターバックスの広報担当はコメントを控えると語り、キューリグからの回答はなかった。

2〜3年前に第一審で敗訴したコーヒー関連会社側は昨秋行われた非陪審審理の場で最終弁論を行い、飲んでおいしいと感じられる味の範囲内でどの程度のアクリルアミドの混入まで安全とされるのかを65条の例外として示すべきだと主張している。

米国食品医薬局の前局長、David Kessler氏はコーヒー産業を支持する立場から、『コーヒーについては健康メリットも周知されており米国民の主要飲料なのでルールを作る場合には注意深く行うべきである』と証言した。Kessler氏はコーヒーに発がん警告の表示をすると消費者をソーダやカフェイン入り飲料のような安全性に疑問のある飲料に走らせかねないとも証言している。

一方、原告の専門家達は技術の進歩で受容できる香りを残しかつ、アクリルアミドを減らすことが可能になるはずだと主張している。

セブンイレブンを含む数社の被告は裁判を放棄しており、セブンイレブンは昨年末900000米ドルを支払った上で店内に警告を掲示することとした。スターバックスを含む数社は砂糖・ミルク置き場近く等に警告を掲示することとしたが、もっと解りやすくするように、もしくはコーヒーカップに直接表示するように求められるかもしれない（高額ペナルティーの支払いもある）。

Metzger氏が最初にアクリルアミド訴訟を起こしたのは2002年で、スウェーデン科学者が食品の中にアクリルアミドが含まれていることを発見したすぐ後だった。ファストフードと菓子メーカーが提訴され、カリフォルニア州検事総長に共同起訴された結果、フレンチフライに警告ラベルを貼ることとなりポテトチップのアクリルアミド含有量が減る結果となった。

発癌物質警告表示は1986年以降カリフォルニアのあちこちで見られるようになったが、それはこの年、水の供給ルートに於いては有害化学物質を遮断し、その他の場所では住民に危

陰の存在を警告しなければならないという『安全飲用水及び毒物施行法 (Safe Drinking Water and Toxic Enforcement Act)』が施行されたことによるものである。この法令は 63% の賛成で成立した。

この法令では、民間人であれば誰でも違反を告発できるとしている。昨年、カリフォルニア 検事総長室に 681 案件（費用総額 25.6 百万米ドル）が和解したとのレポートがあった。費用総額の 75% 以上が弁護士の人件費及びその他費用である。弁護士達は昨年プルーンジュース、ポテトパン、ジンジャースナップクッキーなどその他食品に対するアクリルアミド 関連訴訟は後回しにしていた。

この警告表示義務は、その他の州の住民やコーヒー関連企業を憤らせているが、それはカリフォルニア以外の州の住民やコーヒー関連企業が同州の為だけに特別なラベルを作るのは難しいというものである。

共和党のミズリー州検事総長 Josh Hawley 氏は、グリフォサイト (glyphosate) と呼ばれる有名な除草剤を警告表示対象にするかどうかの審議で、最近行われた他の 10 州の検事総長と共同の裁判総括の中で、『警告表示が、例外ではなく規則になってしまうと消費者は警告を無視するようになる』と述べている。『有効な手段でもやり方によっては周りをイライラさせるだけのものに変質してしまう』のだと。

多くのカリフォルニア住民は警告があったからといって彼らの行動を変える理由にはならないと言っている。

サンフランシスコ、ベイエリアの医療技術プログラマー (53 歳) Helena Hamilton 氏は、『警告表示を見ないようにするのはどこに行けばいいのだろう?』『尤も私は何処に行こうが警告表示に影響されることはないが』と言っていた。

以上